

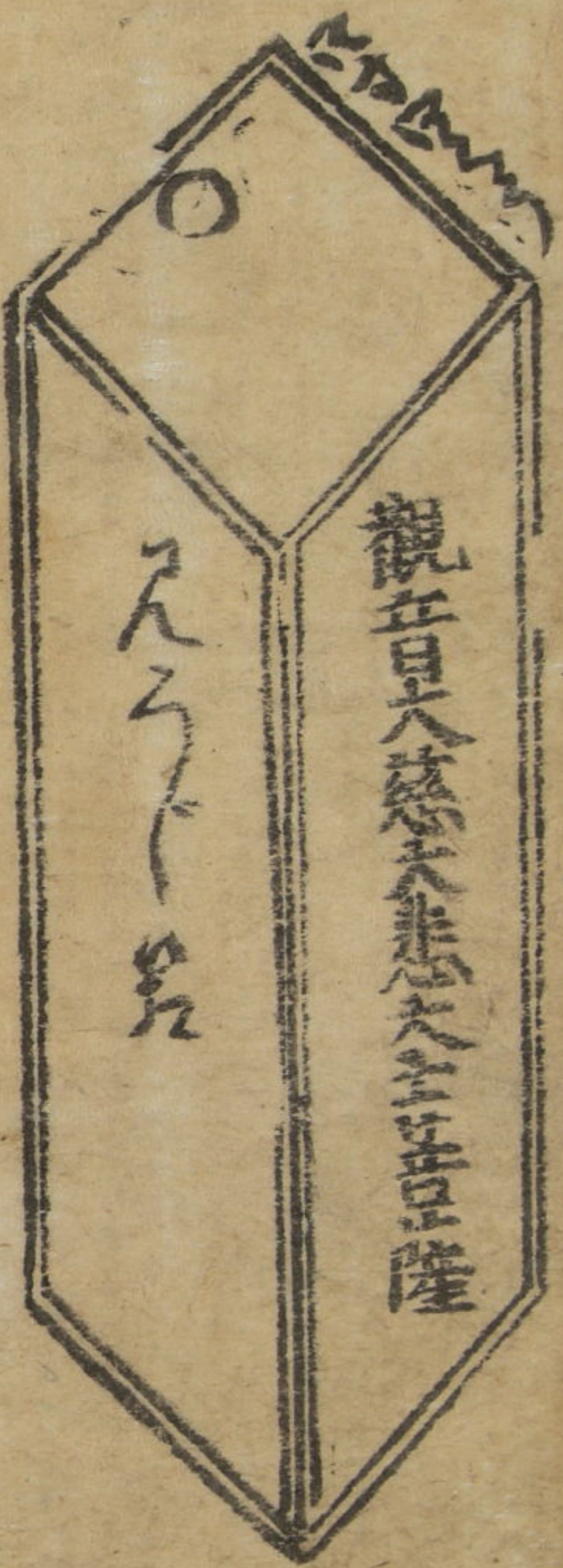
此書物清身口漱洗手
三度頂戴之而可閱之
白地疊上直不可置以
清器直以紙可敷之也



一ノケ一ノケ

觀音入慈大悲大菩薩

えんろとる



一ノケ一ノケ

一ノケ一ノケ

祭のころはんふとよけり百はまをこしびよりの
才一才ニま百まをこしひまのてくおと函とま

持此百籤と申奉は八王城の鎮守
比叡山根本中堂にまをせ給傳教大
師第一乃僧正慈惠大師永觀二年
正月三日お寂せり故り元三大
師と唱奉は身御鏡と取らせ給は
御貞と御臨見有は御安常あはれ
邪魅廻靈と辟治りんと誓給は御座
とるり則此百籤ハ震且國天竺寺より

出たり衆竊以七千餘軸之中に觀
音菩薩無量利益不可勝計也
經曰十方諸國土無刹不現身月乃
衆水之印すりか如く春の萬國小行よ
似たり衆人合掌而求所と請則吉凶
と決すふと聖音乃音に應ずふがゆ
百發百中嗚呼無邊の大慈大悲深
哉く可崇玄妙不可思議度幾籤と

尚者異とらむとて部と譯しと莫く
のん

語函と決しふ者上乃五言四句乃賦
明鑑とすべし下は注ハ不定

あり事小應とて取捨べし
此白者法華普門品三卷讀誦
正觀音千手十一面等乃真言各三
百三十三返禮拜三十三度一然

後可取者也尤能其身と清浄小
 一能其身と心と身一の身一誠の
 意と心と身と心と身と心と身と

十一面觀世音菩薩
 及し去れす



正觀自在三菩薩呪

字孔下はサ

十千眼六菩薩呪

字孔下はサ

サ

十二面觀世音大士呪

字孔下はサ

籤不答時

○甲乙日ハ

巳午申酉のそん

○丙丁日ハ

寅卯亥子のそん

○戊己日ハ

卯辰巳のそん

○庚辛日ハ

子丑巳午のそん

○壬癸日ハ

卯辰戌のそん

右此百籤者以濃州大慈山小松寺之正本校正焉

貞享五年戊辰六月

才一六



七寶浮圖塔

あつめあつめ

高峯頂上安

あつめあつめ

衆人皆仰望

あつめあつめ

莫作等閑者

あつめあつめ

月被浮雲翳

あつめあつめ

之事自皆迷

あつめあつめ

幸乙津合祐

あつめあつめ

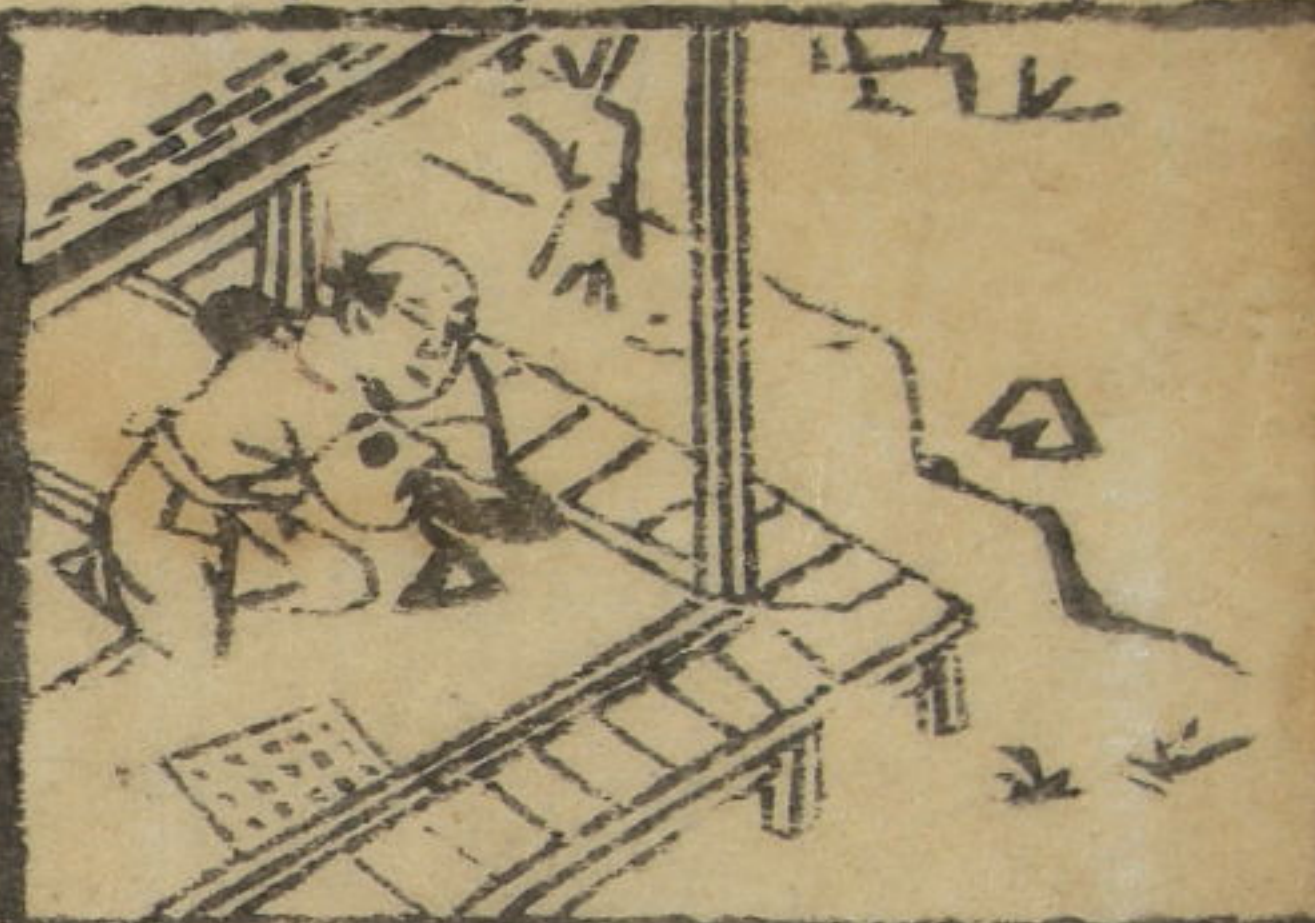
何慮不閑履

あつめあつめ

才二小



才三



愁惱損忠良

愁惱損忠良 用はくすすとし

三月来月一炷香

三月来月一炷香 月はくすすとし

唯然防小過

唯然防小過 唯然防小過

閑慮學時長

閑慮學時長 閑慮學時長

累有興雲志

累有興雲志 累有興雲志

君恩深味封

君恩深味封 君恩深味封

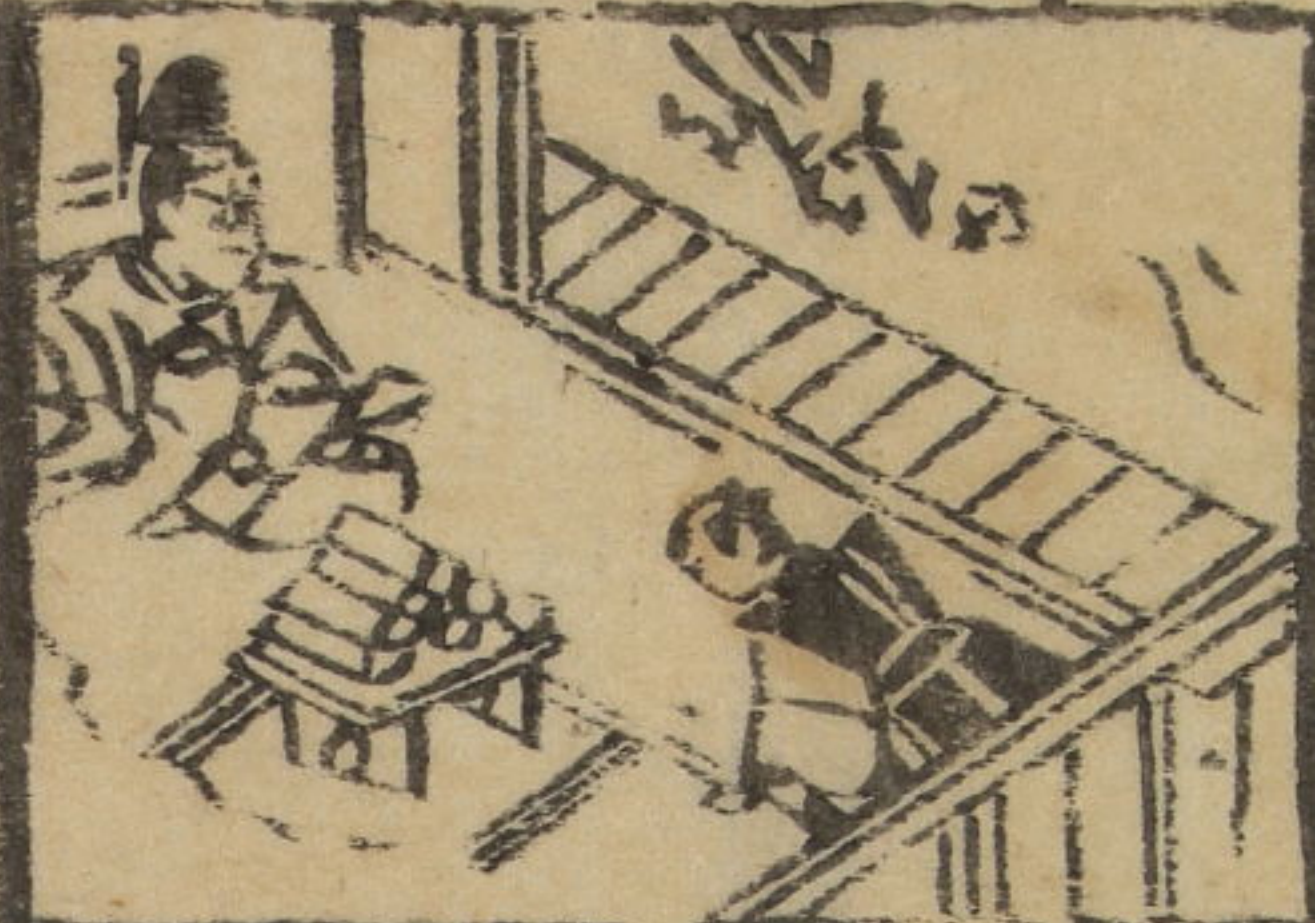
若逢侯手印

若逢侯手印 若逢侯手印

好事始恣恣

好事始恣恣 好事始恣恣

才四



才五



才六



家道不能昌

家道不能昌 家道不能昌

危危保禍殃

危危保禍殃 危危保禍殃

暗雲侵月桂

暗雲侵月桂 暗雲侵月桂

佳人下炷香

佳人下炷香 佳人下炷香

宅墓鬼凶多

宅墓鬼凶多 宅墓鬼凶多

人事有詐訛

人事有詐訛 人事有詐訛

傷賊損失防

傷賊損失防 傷賊損失防

祈福始中和

祈福始中和 祈福始中和

第七番



第八番



登舟待便風

登舟待便風
あはれ舟のりかたを
あはれ舟のりかたを

月色暗朦朧

月色暗朦朧
あはれ月とこころ
あはれ月とこころ

欲碾香輪去

欲碾香輪去
あはれ香のりかたを
あはれ香のりかたを

高山千方里

高山千方里
あはれ山とこころ
あはれ山とこころ

勿頭中尾見

勿頭中尾見
あはれ頭とこころ
あはれ頭とこころ

文筆須得理

文筆須得理
あはれ筆とこころ
あはれ筆とこころ

木刀自偶然

木刀自偶然
あはれ刀とこころ
あはれ刀とこころ

當遇非常喜

當遇非常喜
あはれ喜とこころ
あはれ喜とこころ

第九番



第十番



有名領得遇

有名領得遇
あはれ名とこころ
あはれ名とこころ

三望一期遷

三望一期遷
あはれ望とこころ
あはれ望とこころ

貴人來指處

貴人來指處
あはれ貴人とこころ
あはれ貴人とこころ

華菓應時鮮

華菓應時鮮
あはれ華とこころ
あはれ華とこころ

舊用多成破

舊用多成破
あはれ舊とこころ
あはれ舊とこころ

新吏始見賊

新吏始見賊
あはれ新とこころ
あはれ新とこころ

政求雲外望

政求雲外望
あはれ政とこころ
あはれ政とこころ

枯木遇春開

枯木遇春開
あはれ木とこころ
あはれ木とこころ

吉大一千才



有祿興家業
 文華達帝都
 兼得貴人扶
 雲中傑好辭
 兼得貴人扶

吉大二千才



揚柳遇春時
 殘華發舊枝
 重重霜雪裡
 黃金色更輝

吉大三千才



手把太陽輝
 東君發舊枝
 稼苗方欲秀
 猶更上雲梯

吉大四千才



石玉味分時
 憂心轉更迷
 前途通大道
 華發應殘枝

第五十



第六十



年兆數亦孤

年兆數亦孤

久病味能蕪

久病味能蕪

岸危舟未登

岸危舟未登

龍臥失明珠

龍臥失明珠

欲政重成望

欲政重成望

前途喜亦寧

前途喜亦寧

貴人相助處

貴人相助處

祿馬照前程

祿馬照前程

第七十



第八十



惟異初憂憫

惟異初憂憫

人宅見分離

人宅見分離

惜華還值雨

惜華還值雨

杯酒惹閑非

杯酒惹閑非

離暗出明時

離暗出明時

麻衣變綠衣

麻衣變綠衣

舊憂終是退

舊憂終是退

遇祿應交輝

遇祿應交輝



家道生荆藿
けいさうせいけいごく

兒孫防虎威
いそんぼうこゝろ

香前祈福厚
かうぜんきふくこう

方得免切難
かたうけあきらめがた

月出漸分明
つきいでしだいにあき

家財每每興
けざいめいめいこう

何言先有滿
なにをいふまづみちみ

更變立功名
さらばいさなをたか



洗出經年否
せんしゅつけいねんひ

光華得再清
こうかあまたあらう

所求終吉利
しよすうしゆうきちり

重日照前程
ちゆうにちあへまへ

漸漸濃雲散
しんしんのうらぎ

看看月再明
みよみよつきまたあ

逢青春華菓秀
あひあけはるはな

雨過竹重青
あめをりたけまた



紅雲隨步起

一箭中言霄

鹿行千里遠

事知去路遙

三共莫相逢

盟言說未通

門裏心肝掛

編素子重重

紅雲隨步起
紅雲隨步起
紅雲隨步起

一箭中言霄
一箭中言霄
一箭中言霄

鹿行千里遠
鹿行千里遠
鹿行千里遠

事知去路遙
事知去路遙
事知去路遙

三共莫相逢
三共莫相逢
三共莫相逢

盟言說未通
盟言說未通
盟言說未通

門裏心肝掛
門裏心肝掛
門裏心肝掛

編素子重重
編素子重重
編素子重重

上



枯木遇春生

前途必利亨

亦得佳人箭

乘車祿自行

將軍有異聲

進兵萬里程

爭先臨敵處

道勝却虛名

枯木遇春生
枯木遇春生
枯木遇春生

前途必利亨
前途必利亨
前途必利亨

亦得佳人箭
亦得佳人箭
亦得佳人箭

乘車祿自行
乘車祿自行
乘車祿自行

將軍有異聲
將軍有異聲
將軍有異聲

進兵萬里程
進兵萬里程
進兵萬里程

爭先臨敵處
爭先臨敵處
爭先臨敵處

道勝却虛名
道勝却虛名
道勝却虛名

新 西 西 西 西 西 西 西 西 西

上野村

言七十二才

言八十三才



望祿應重山

花紅喜悅顏

望頭看皎月

漸出黑雲間

意速無舩渡

波深必誤身

切須回舊路

方可逸與逃

望祿應重山
くろくハあまのついでに
くろくハあまのついでに

花紅喜悅顏
はなにやうきげん
はなにやうきげん

望頭看皎月
もちのうらみ
もちのうらみ

漸出黑雲間
あまのついでに
あまのついでに

意速無舩渡
いそぎにふねを
いそぎにふねを

波深必誤身
なみはふかき
なみはふかき

切須回舊路
きりかへふるまひ
きりかへふるまひ

方可逸與逃
あまのついでに
あまのついでに

言九十二才

言三十三才



憂鬱漸消融

求名得真通

寶財臨祿位

當遇主人公

仙鶴立高枝

防他暗箭虧

并畔剛刀利

戸内更防危

憂鬱漸消融
うれしきこと
うれしきこと

求名得真通
なをたづねて
なをたづねて

寶財臨祿位
たからもの
たからもの

當遇主人公
あまのついでに
あまのついでに

仙鶴立高枝
せんかくすた
せんかくすた

防他暗箭虧
あまのついでに
あまのついでに

并畔剛刀利
なみはきり
なみはきり

戸内更防危
あまのついでに
あまのついでに

言末十三才

言二十三才



鯨鯨沫變時

且守若澹淡

風雲興巨浪

一息過天地

似玉藏深石

休將故眼看

一朝良遠別

方見寶光映

鯨鯨の沫は變りて時を告ぐ

且守若澹淡の如く

風雲興巨浪の如く

一息過天地の如く

似玉藏深石の如く

休將故眼看の如く

一朝良遠別の如く

方見寶光映の如く

言三十三才

言四十三才



枯木逢春斃

芳菲面發絲

雲間方見月

前遇昔人歎

臘木春將至

芳菲昔再新

鯨鯨興巨浪

舉鈎探鳥真

枯木逢春斃の如く

芳菲面發絲の如く

雲間方見月の如く

前遇昔人歎の如く

臘木春將至の如く

芳菲昔再新の如く

鯨鯨興巨浪の如く

舉鈎探鳥真の如く



賊鹿須棄箭

胡僧引路歸

過道同仙籍

光華映晚暉

先損後有益

如月之剝蝕

至免待重生

光華當滿室

とらふんはひんかひんか

まふさなりんかひんか

あつとまふさひんか

ひんかひんかひんか

ふんかひんかひんか

ひんかひんかひんか

ひんかひんかひんか

ひんかひんかひんか



陰翳味能通

求名亦味逢

幸然須有變

箭中雙雙鴻

月照天書靜

雲生霧彩霞

久想離庭客

無事惹咨嗟

とらふんはひんかひんか

まふさなりんかひんか

あつとまふさひんか

ひんかひんかひんか

ふんかひんかひんか

ひんかひんかひんか

ひんかひんかひんか

ひんかひんかひんか



望用方心腹

望用方心腹

家鄉被火災

家郷被火災

憂危三五度

憂危三五度

由損斷頭財

由損斷頭財

中正方成道

中正方成道

毒邪忌慧愆

毒邪忌慧愆

臺中盛妙藥

臺中盛妙藥

非久去煩煎

非久去煩煎



有物不周旋

有物不周旋

須防損半錢

須防損半錢

家鄉煙火裡

家郷煙火裡

祈福始安然

祈福始安然

桂華春將到

桂華春將到

雲天好進程

雲天好進程

貴人相遇處

貴人相遇處

暗月再分明

暗月再分明



月桂將相満

追鹿映山溪

貴人乘遠箭

好事好相宜

盤中果六子

一著要機先

天龍降甘澤

洗出舊根芽

あつた月桂の満ちて

鹿を映した山溪

貴い人が遠くまで

好む事好む相宜

盤の中の果は六子

一着の要は機先

天龍が降した甘澤

洗った古い根芽

有急興高顯

祿馬引前程

得過雲中箭

之蘭滿路生

雷發雲成天昏

佳人獨掩門

交加文書上

無事也遭巡

あつた急興の高顯

祿馬を引く前程

得た雲中の箭

之蘭が満ちる路生

雷が發して雲が成り

佳人が獨り掩る門

交加する文書の上

無事でも遭つた巡





更望身前立

いふ所のまひの

何期在晚成

いふ所のまひの

若過重山去

いふ所のまひの

財禄自相迎

いふ所のまひの

見禄隔前溪

いふ所のまひの

勞心休便速

いふ所のまひの

一朝逢好渡

いふ所のまひの

鸞鳳入雲飛

いふ所のまひの

正好中秋月

いふ所のまひの

蟾蜍皎潔間

いふ所のまひの

暗雲知甚處

いふ所のまひの

故故兩相攀

いふ所のまひの

有達直更變

いふ所のまひの

重山利政逢

いふ所のまひの

前途相偶合

いふ所のまひの

財禄保亨通

いふ所のまひの





修進甚功奇

勞生未得時

騰身遊碧漢

方得遇高技

有德復慈誥

兼有事交加

門裏防人厄

災臨莫嘆嗟

修進甚功奇
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま

勞生未得時
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま

騰身遊碧漢
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま

方得遇高技
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま

有德復慈誥
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま

兼有事交加
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま

門裏防人厄
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま

災臨莫嘆嗟
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま



又困漸能安

雲書降印權

殘花終結實

時亨祿自遷

身同意不同

月蝕暗長空

輪雖常在手

魚木味相逢

又困漸能安
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま

雲書降印權
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま

殘花終結實
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま

時亨祿自遷
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま

身同意不同
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま

月蝕暗長空
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま

輪雖常在手
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま

魚木味相逢
まよふとくうわらふま
まよふとくうわらふま



雲散月重明
あきくわつを
あきくわつを

天皇得誌誠
てんたいがく
てんたいがく

雖然多阻滯
すなはちおほく
あきらめ

葦發再重榮
あしはつまた
あしはつまた

生涯喜復憂
しやうがいき
あはれ

味光先白頭
あじみつあ
あはれ

勞心十百度
らうしんじ
あはれ

方遇貴人留
あたふた
あはれ



欲渡長江闊
ほつたかた
あはれ

波深未自傳
なふかみ
あはれ

前津逢浪靜
まへつあ
あはれ

重盤鉤釣魚釣
おもひか
あはれ

有徑江海隔
あやみち
あはれ

車行峻嶺危
くるま
あはれ

亦防多進退
また
あはれ

猶恐小人虧
なほおそ
あはれ

西九十五



去住心無定

行藏亦未寧

一輪清皎潔

卻被黑雲乘

高危安可涉

平坦是延年

守道當逢泰

風雲不偶然

いふまゝに心無定

ゆくはゆくは未だ

ひとりの清く皎く

あつたが黒雲に

たつたに安んずる

やすき道は長生き

まじりてふくふ

ふくふあつた

吉小十九



百一十



吉六十六



舊德何日解

戸内保媪翁

要逢十一日

遇鼠過牛處

災難時時退

名顯四方揚

政故重來祿

昇高福自昌

むかし徳をたもて

うちをいへば

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

丙三十六才



何故生荆棘

佳人意漸疎

又因重輪下

黃金不出渠

安居且慮危

情深主別離

風飄波浪急

聖眷各自馳

いかにあらはらぬと

うらみのこころとらふと

ひさしくらりたるのり

いかにあらはらぬと

いかにあらはらぬと

いかにあらはらぬと

いかにあらはらぬと

いかにあらはらぬと

丙四十六才



丙五十六才



昔病兼防辱

乘危亦未撫

若見一陽後

方可作良圖

水滸水波濤

飛鴻落羽毛

重憂心緒亂

閑事惹風騷

いかにあらはらぬと

いかにあらはらぬと

いかにあらはらぬと

いかにあらはらぬと

いかにあらはらぬと

いかにあらはらぬと

いかにあらはらぬと

いかにあらはらぬと

丙六十六才



第六十七回



枯木末生枝

うらたけまうらたけのこゝろ

獨歩上雲梯

ひとりあゆむうらたけのこゝろ

豈知身未穩

いかんか身未だたゆまぬ

獨自惹閑非

ひとりよそひていそひ

異夢生英傑

いふゆゑに夢に英傑

前來事可疑

まへにきたる事いふゆゑ

芳菲春月暖

はなはなははるのつき

依舊發殘枝

いまだにうらたけのこゝろ

第六十八回



第六十九回



明月暗雲浮

あきらかにうらたけのこゝろ

華紅「半枯

はなはなははるのこゝろ

惹事傷心處

いふゆゑに夢に英傑

行舟真遠圖

いふゆゑに夢に英傑

雷歎庭前抄

あきらかにうらたけのこゝろ

炎火向天飛

あきらかにうらたけのこゝろ

一心來趣禄

あきらかにうらたけのこゝろ

筆奈掩朱扉

あきらかにうらたけのこゝろ

第七十回





道業未成時

あふちかたのこころを
とすれどあつちかた

何事酒不且

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを

事煩心緒亂

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを

翻作意徘徊

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを

戸内湯重厄

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを

華真見分枝

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを

嚴霜繞過後

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを

方可始相宜

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを



又晴漸分明

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを

登江綠水澄

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを

芝書從遠降

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを

終得異人成

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを

蛇虎正交羅

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを

牛生二尾多

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを

交裁方成慶

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを

上下不能和

あつちかたのこころを
あつちかたのこころを



孤舟欲過岸

うねり舟りいさの
きりぎりすとすれが

浪急浪人空

うねりたうり
あけぬきり

女人互流水

あまのなごりあまのなごり
あまのなごりあまのなごり

望月意情濃

あまのなごりあまのなごり
あまのなごりあまのなごり

富貴天之祐

あまのなごりあまのなごり
あまのなごりあまのなごり

何須苦用心

あまのなごりあまのなごり
あまのなごりあまのなごり

前程應顯跡

あまのなごりあまのなごり
あまのなごりあまのなごり

只用得高昇

あまのなごりあまのなごり
あまのなごりあまのなごり



果帶未能懸

あまのなごりあまのなごり
あまのなごりあまのなごり

求名莫遠圖

あまのなごりあまのなごり
あまのなごりあまのなごり

登舟波浪急

あまのなごりあまのなごり
あまのなごりあまのなごり

咫尺隔天衢

あまのなごりあまのなごり
あまのなごりあまのなごり

但存公道正

あまのなごりあまのなごり
あまのなごりあまのなごり

何愁理去忠

あまのなごりあまのなごり
あまのなごりあまのなごり

松栢蒼蒼翠

あまのなごりあまのなごり
あまのなごりあまのなごり

前山祿馬重

あまのなごりあまのなごり
あまのなごりあまのなごり





殘月沫還光

樽前非謠傷

戸中有入厄

祈福保青陽

深山多長道

忠正帝王宣

鳳姿變鳥飛去

昇高過九天

残月沫還光の
うらみはなほ
さけつゝいづれ
もなきうらみ
もなき

戸中有入厄
あつちの
あつちの

祈福保青陽
あつちの
あつちの

深山多長道
あつちの
あつちの

忠正帝王宣
あつちの
あつちの

鳳姿變鳥飛去
あつちの
あつちの

昇高過九天
あつちの
あつちの



道合願成命

先尊事更多

所采財寶具

更變得申知

燈發應連天

新秋意舊然

欲求千里外

要渡更無欺

道合願成命
あつちの
あつちの

先尊事更多
あつちの
あつちの

所采財寶具
あつちの
あつちの

更變得申知
あつちの
あつちの

燈發應連天
あつちの
あつちの

新秋意舊然
あつちの
あつちの

欲求千里外
あつちの
あつちの

要渡更無欺
あつちの
あつちの

酉三十八才



擧歩出雲端

擧歩出雲端
こらあめべこま
くくたううら

高枝未可攀

高枝未可攀
こらあめべこま
くくたううら

昂頭看皎月

昂頭看皎月
あたまの月とあとのそ
らうらうら

猶在黒雲間

猶在黒雲間
こらあめべこま
くくたううら

否極方無泰

否極方無泰
あたまの月とあとのそ
らうらうら

華開值晚秋

華開值晚秋
あたまの月とあとのそ
らうらうら

人情不調借

人情不調借
あたまの月とあとのそ
らうらうら

財寶鬼來偷

財寶鬼來偷
あたまの月とあとのそ
らうらうら

酉四十八才



望用何愁願

望用何愁願
あたまの月とあとのそ
らうらうら

求名漸得寧

求名漸得寧
あたまの月とあとのそ
らうらうら

雲梯終有聖

雲梯終有聖
あたまの月とあとのそ
らうらうら

歸路入蓬瀛

歸路入蓬瀛
あたまの月とあとのそ
らうらうら

華發應陽臺

華發應陽臺
あたまの月とあとのそ
らうらうら

車行進財寶

車行進財寶
あたまの月とあとのそ
らうらうら

執文朝帝殿

執文朝帝殿
あたまの月とあとのそ
らうらうら

走馬听雷聲

走馬听雷聲
あたまの月とあとのそ
らうらうら

酉五十八才



吉六十八才





巖石方逢玉

巖石のすゝめの方玉や
かりのすゝめくさくさなり

淘沙始現金

いそいですのうらぶらぶと
いそいであつたさうり

青雲出有路

いそいであつたさうり
いそいであつたさうり

只恐不堅心

いそいであつたさうり
いそいであつたさうり

作事不相同

いそいであつたさうり
いそいであつたさうり

臨危更主凶

いそいであつたさうり
いそいであつたさうり

佳人生苦根

いそいであつたさうり
いそいであつたさうり

閑慮兩三重

いそいであつたさうり
いそいであつたさうり



一片無瑕玉

いそいであつたさうり
いそいであつたさうり

從今好琢磨

いそいであつたさうり
いそいであつたさうり

得遇高人識

いそいであつたさうり
いそいであつたさうり

方逢喜氣多

いそいであつたさうり
いそいであつたさうり

一信向天飛

いそいであつたさうり
いそいであつたさうり

秦川舟自歸

いそいであつたさうり
いそいであつたさうり

前途成好事

いそいであつたさうり
いそいであつたさうり

應得貴人推

いそいであつたさうり
いそいであつたさうり





改變前途夫

月往人逢圓

雲中乘禱至

凡事可且先

自如常為旅

逢春駁馬驕

前程宜進步

得前降音膏

いさなまわくしあつ
ありさうりて

あつた月のあつた
くくわつたさうり

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

有魚臨早池

踴躍入波濤

胸中須有望

先日慮塵勞

事忌樽前語

人防小輩交

幸乞陰公祐

方免事敵

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた



事忌樽前語

人防小輩交

幸乞陰公祐

方免事敵

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた



志氣勤修業

禄位味造逢

若見金雞語

乘取得便風

雞逐鳳回飛

高林整羽儀

棹舟須濟岸

寶貨滿船歸

志氣勤修業
くしとけいさくをいふ

禄位味造逢
しとけいさくをいふ

若見金雞語
しとけいさくをいふ

乘取得便風
しとけいさくをいふ

雞逐鳳回飛
しとけいさくをいふ

高林整羽儀
しとけいさくをいふ

棹舟須濟岸
しとけいさくをいふ

寶貨滿船歸
しとけいさくをいふ



霧草重樓屋

佳人水上行

白雲歸去路

不見月波澄

欲理新絲亂

閑愁足是非

只困羅網裡

相見幾人悲

霧草重樓屋
しとけいさくをいふ

佳人水上行
しとけいさくをいふ

白雲歸去路
しとけいさくをいふ

不見月波澄
しとけいさくをいふ

欲理新絲亂
しとけいさくをいふ

閑愁足是非
しとけいさくをいふ

只困羅網裡
しとけいさくをいふ

相見幾人悲
しとけいさくをいふ

九九十九



一才一



紅日當門照
天このう丸月のま

晴月再重圓
このりこの月れまよて

暹羅願得寶
このりこのまよて

頗有稱必遂
このりこのまよて

祿走白雲間
このりこのまよて

兼琴過遠山
このりこのまよて

不遇神山面
このりこのまよて

空惹意珊瑚
このりこのまよて

三

上
八
八
八
八
八
八
八
八
八

上
平
本
村

八
平
本
村

